



# 我思う、故に我あり

—日本のガリレオ・コペルニクスたち—



国際文化学部長

戸崎 宏 正

表題に掲げたのはかの有名なフランスの哲学者、デカルトの言葉である。思えば、人々は遙か昔から、自己の存在について、「我思う」、つまり、自分とは一体何なのかということについて、人それぞれに思弁をめぐらせてきた。しかしながら、「故に我あり」という安心立命の境地(悟り)に到達し得た人はなかなかいないようである。

人は先人の思索の跡をたどり、導かれながらも、ついついその枠組みとなるものについては疑うということをしなない。多少の疑問を抱くということはあるにしても、その根本にまで想いをいたす人はなかなかいない。古来より安心立命の境地に到達し得た人は、その前提となるものを疑った人たちのようである。

今年には戦後五十年、国の内外で様々なもの有り様が、あらためて問いなおされようとしている。言い換えれば、世の中の枠組みという根本的なものが問われているのである。ある種の激動の時代、ひよっとすると、それは日本人が今まで経験してこなかった類いのものかもしれない。私はそのようなことを予感している。

私たちが深く関わる日本の人文科学の世界を今

に至るまで支配し続けているのは、江戸時代の学者、本居宣長の形造った枠組みである。人文科学が科学たり得るためには、それなりの学的根拠が必要である。ところが、宣長が形造った枠組みには、どうやらこの学的根拠がなかった、という非常にショッキングなことが明らかにされたようである。

江戸時代以来近年に至るまで、宣長の学的根拠を疑ったという人はあまり知らない。疑った最初の人は、昭和四十五年『「邪馬台国」はなかった』という書を世に送った古田武彦氏である。この画期的な書も氏の歴史観のゆえか、広く世に受け入れられるものとはなっていない。ところが、この古田氏の所説を見事、科学的(?)に証明した人物が現れたのである。現在大阪は茨木市の追手門学院大学で教鞭をとっておいでの中小路駿逸(なかこうじ しゅんいつ)氏がその人である。氏の所説は影響を及ぼす範囲が誠に甚大で、まさにノーベル賞級のものと言っても過言ではない。

以上は私が最近知人から伺ったところである。戦後五十年にして、やっと日本の人文科学も科学たりえようとしているということか。宣長逝いておよそ二百年、それにしても長い道のりであった。我々は、やっと宣長の呪縛から逃れられようである。

もれ聞くとところによると、この度文学部国文学科は再来年学科を閉じるにあたり、これが最後となる集中講義の講師として、氏をお招きしたようである。私は今から氏にお会い出来るであらうことを心待ちにしている。

(ときまき ひろまさ・印度哲学)

# 山ふところ

—宮野点描—

女子大グラウンドの北に今年二月、パイパスが開通し、それが国道9号線となり、旧国道が県道となりました。

新国道の北側の山ふところに「桜圃会館」と、来年四月開設の看護学部棟の建設が、来春の完成を目指し着々と進行中です。

全国的に大学改革が進められているなか、本学も○○○、来年度から共学化と決まりました。○○○の中には一体どのような言葉を入れるのが適当でしょうか。

学生数の増加に伴ない、当然のことながら、学生食堂も「超」満員。図書館にいたっては閲覧コーナーの大幅な不足。新学部開設のための受入れ図書館の収容スペース不足による書庫の超過密状態。男子学生の受入れをも含めて、施設設備の早急な改善、中でも図書館については一日も早い完成が望まれます。

## 平成6年度 教育研究充実費決算報告

歳入決算額	4,764,076
歳出決算額	1,534,530
差引繰越額	3,229,546

## 〔歳入の部〕

費目	歳入額
充実費	4,815,000
雑収入	39,076
返納金	△ 90,000
合計	4,764,076

## 〔歳出の部〕

(単位:円)

費目	決算額
学部運営補助費	122,496
文庫資料費	343,937
客員講師費	220,000
親睦活動費	120,020
国際交流活動促進補助費	107,870
体育活動促進補助費	288,676
芸術活動促進補助費	100,000
予備費	231,531
合計	1,534,530

監査報告 平成7年6月2日

監査委員 宇多光雄 ㊦

" 相原次男 ㊦

## 文献学と人類学の協力

安野 早己

着任早々研修の機会を与えられ、東京大学東洋文化研究所にて「文献学と人類学の協同によるポピュラーヒンドゥーイズムの総合的研究」という課題に取りくむことができた。

私はこれまで文部省留学生ならびに外務省専門調査員として西ネパールで人類学的調査に従事してきた。人類学の特徴は長期の集中的フィールドワークという方法にあり、小規模の社会に住み込んで直接観察から得られたデータが研究の基礎となる。しかし、ヒンドゥー教のような大文明の中に位置している社会の研究は文献に残された伝統の理解なくして成り立たない。

研修相手の永ノ尾先生は有能な梵文学者にして、民衆が生きてきた実践としてのヒンドゥー教理解をめざしておられる。縁に囲まれた研究所の六階南アジア部門で、日々談論風発、楽しく有意義な研修生活だった。(やすの はやみ・文化人類学)

## 曲阜での日本語教育

古別府 ひづる

昨年十一月から今年三月まで、曲阜師範大学へ交流教員として派遣され、外文系の三年生に第二外国語としての日本語を教えました。一組約四十人週四時間では、日本語の習得はあまり期待できないが、せめて使える楽しさをと、授業では、発話を促すために学習項目の説明に終始せず必然性のある問答形式で尋ね答えさせること、学習したことが聞きとれるかテープで確認するなどの基本的なことを中心に、さらに、毎週火曜日の夜六時半から九時をうちを解放し、日本語のゲーム・歌・自由会話に当てました。そして、その時間だけは專家楼の中で一番騒がしい所として、他の外国人教師からマークされるようになりました。学生は真剣な余りゲームであることを忘れ、ルール違反を犯し討論に及んだこともありましたが(これが日本語で行われたのには、感動してしまつた)。最後に、一部の学生は目を見張る程日本語がうまくなり、日本へ連れて帰りたいと思つた程度でした。これだから日本語教師はやめられません。(ふるべつぷ ひづる・日本語教育)

## 散逸した資料の

## 収集と整理



衣笠 哲生

昨年秋に『福岡県労働運動史』（福岡県労働部）第三巻（昭和三十六年～四十五年）の編纂委員長に選ばれ、この春まで編纂の基本方針や本の構成などをまとめあげ、残るは執筆陣の決定だけというところで山口に赴任することになりました。このため月一回の割合で福岡に足を運び、七月初めに執筆陣を確定できました。

あとは平成八年七月までにB五版一五〇〇頁分の原稿の完成を待ち、これに眼を通せばよいということになるわけですが、散逸した資料の収集と整理を執筆陣と協議しながらやらねばなりません。三十数年もたちますと労働組合の生の資料の散逸は予想以上にひどい状況にあります。この機会を逃したら全国に注目された福岡県の労働組合運動の資料を後の人たちに引き継ぐことはできなくなりません。この夏休みに福岡で資料の収集に取り組みねばなりません。（きぬがさ てつお・政治学）

## 掃除と整理の日々

近藤 淳子



私の研究室はC館の四階にあり、窓から山を見渡すたびに山口に

やってきたという実感をもちます。雨あがりの山、特に新キャンパスを背景とする山々は水墨画を思わせるほどの美しさで階段を降りながらつい立ち止まりうっとりしてしまします。

四月に引っ越してきたのに私の研究室は、まだ整理されずダンボール箱に入ったままの本やコピーの山で雑然としています。私の専門はアメリカ外交史なので英語で書かれた本や資料が多く、毎日が辞書との付き合いです。二年生の基礎演習では十三人の学生とアメリカ外交史のなかの日米関係史を勉強しています。学生が私の本を使えるよう、またチューターの学生がいつでも相談に来れるよう、早く研究室をきれいに片付けたいと思います。近い将来ゼミを研究室でやれるよう目下研究室の掃除に励んでいます。（こんどう じゅんこ・日米外交史）

## ハンゲルの部屋

田村 宏



「研究室」といっても、私が現時点で担当している科目は初級・

中級ハンゲルおよび言語学概論だけで、専門科目は来年度以降の開講予定ですから、私自身のための研究のぞけば、学生とともにする「研究」という名にふさわしい活動は現在特に行なっていません。それでも最近

は韓国語についての質問などのために私の部屋を訪れる学生が少しずつふえてきました。試験を目前にひかえた状況ではあるにせよ、喜ばしいことだと考えています。また、正規の授業以外に一、二年生でハンゲルを受講した学生の中に継続学習希望者が何人かいるため、週に一度「補講」を行なっています。それらの学生を含め、勉強をはじめて二年目ぐらいから、少なくとも読むことに関しては目ざましい進歩をみせる場合が多いことも韓国語学習の顕著な傾向のひとつではないかと考えています。（たむら ひろし・言語学）

## I come from Tabuse

国際文化学科 二年 國弘 聡子

学問をするには最適な場所と聞かされてやってきた山口。農作物や牛を飼育するには最適な私の地元は、大抵の人が場所はどこであるか分からないけれど、あのタレント松村邦洋で多くの人が知っている山口県は熊毛郡布施町である。一年の英会話の時間、I come from Tabuse. と自己紹介すると、クラス中から笑いが起こったのを覚えている。

一年生の時はよく帰省したが、今年は一入暮らしを始めたせいかわめたに帰らない。休みの日はアルバイトをしたり、図書館に行つて時間を過ごしている。ここにはたくさんのお跡や公共施設も揃っているため有意義な時間が過ごせる。また、早朝のパークロードを自転車で駆け抜ける時など絵に描けそうだと一人満足している。山女は来年から男女共学という今までにはない大きな変革期を迎えるが、古風な情緒を残しつつも山口全体に大きな変革が必要なのではないかと、田布施よりやってきた山口県人の一人として考えている。

公開講座開かれる

国際文化学部初の公開講座が、昨年十月から十一月にかけて、小野田市教育委員会の共催、同窓会小野田支部の後援の下に小野田市民館を会場に開かれました。

テーマは「国際化の中の日本を考える」―比較文化の視点から―。

国際化の波は今や、地域の生活や文化の在り方はもちろん、人間の生き方にも大きな影響を及ぼしてきています。国際化とは何か。国際化社会をいかに生きていくか。これらの問題を比較文化の視点から皆様と一緒に考える、というのが、このたびの公開講座のねらいでした。

講師陣はいずれも本学教員、以下はその詳細です。

平成六年

十月 十二日 日米外交の光と影

K・飯田

十九日 女性学からみた日本とアメリカ

三宅 義子

二十六日 バルト海からバルカンまで

中村都史子

十一月 十六日 韓国の言語文化

田村 宏

二十二日 イタリアの文化と教育

酒井ツギ子

三十日 国際化時代と日本人

宇多 光雄

なお、全講座の受講者には修了証書が授与されました。

国際文化学部短信

教員の異動

平成七年三月 安野早己教授、国内研修(東京大学)より

帰任

古別府ひづる講師、交換研究員(中国曲阜

師範大学)より帰任

平成七年四月【新任】衣笠哲生教授(政治学)

安溪遊地教授(文化人類学)

近藤淳子教授(日米外交史)

田村洋助教授(音楽)

中上史子助手(日本語学)

国際交流活動促進部会

―活動報告―

平成六年七月 国際交流七夕祭

十月 国際文化理解・国際化に関する体験講演

会(以後三回開催)

華月祭国際交流ブース(国際理解のため

の展示、及びディスカッションの企画)

担当

十一月 国際体験合宿(英語での生活体験とテ

マ・ディスカッション)

十二月 国際理解フォーラム

平成七年一月 国際交流パーティー

【その他】国際交流・国際化に関する情

報提供

(担当 酒井ツギ子、マリリン・ヒギンズ、エイミ

イ・ウイルソン、山崎孝史、古別府ひづる、国際交

流員イルメリン・キルヒナー)

編集後記

創刊号、又不慣れな仕事にて、いささか発刊が遅くなり申しわけない次第です。

早いもので学部が発足して

二年目。それに伴ない、母体

であった文学部はやがて幕を

閉じてしまいます。二つの学

部に関わっている関係者の苦

労は並大抵ではありません。

暑い毎日ですが、くれぐれも

御自愛下さい。

と同時に新・旧両学部の学

生、とりわけ文学部の学生に

対しては今まで以上に配慮

下さいますようお願い申し上

げます。

第一面のコラム欄の見出し

「山ふところ」は学生歌より

取りました。宮野の開発が山

河の潤いを損ねたり、環境を

破壊したりといったこととな

いよう願うものです。

今夏の長期予報では、西日

本は例年並の暑さだそうです。

夏ばて、旅行、レジャー等に

は、くれぐれもご用心下さい。

なお、題字は、中国は唐代

の書家王羲之等の書蹟より集

字しました。

編集担当 武市 真弘  
野口 義廣